

高浜市行財政改革市民会議(第1回) 議事録

日 時	令和8年6月15日（月）午後2時～午後3時45分		
場 所	高浜市役所3階議場（多目的ホール）	傍 聴 人 数	16人
出席者	委 員	齊藤 由里恵（アドバイザー） 畠 孝二郎 青山 瞳子 伊藤 亮 谷原 希恵 内藤 尚仁 坂本 直敏 中島 勉 杉浦 彩希	
	行 政	市長 杉浦 康憲	
	事 務 局	副市長 深谷 直弘 行財政改革グループ リーダー 榊原 雅彦 同 副主幹 大八木 優希 同 主 査 岩崎 彩	
	行財政改革推進 本 部	教育長 村越 茂樹 企画部長 野口 恒夫 総務部長 杉浦 崇臣 市民部長 岡島 正明 福祉部長 竹内 正夫 こども未来部長 鈴木 明美 都市政策部長 磯村 順司 議会事務局長 内藤 克己	
	行財政改革推進 プ ロ ジ ェ ク ト 分 科 会	事務事業の見直しプロジェクト分科会 平川 亮二 公共施設の再構築プロジェクト分科会 清水 健 組織構造改革プロジェクト分科会 京極 昌彦 財源の積極的な確保プロジェクト分科会 都築 真哉	
次 第	1. 市長あいさつ 2. 辞令交付・自己紹介 3. 議題 （1）会長・副会長の選出について （2）高浜市 行財政改革について （3）高浜市の財政状況・見通しについて （4）市民会議の運営について （5）（仮称）高浜市 行財政改革 プラン について （6）行財政改革推進プロジェクト各分科会の取組状況について 4. その他		

資 料	・ 次第 ・【資料 1】 市民会議委員名簿 ・【資料 2】 市民会議要綱 ・【資料 3】 行財政改革概要チラシ ・【資料 4】 今後の財政見通しについて ・【資料 4 参考】 財政見通しに関する用語集 ・【資料 5】 市民会議の運営について ・【資料 6】 (仮称) 高浜市行財政改革プランについて ・【資料 7】 各プロジェクト分科会取組状況 ・【資料 8】 職員アンケート結果概要
-----	---

1. 市長あいさつ

- ・ 現在高浜市は財政状況が厳しく、全国的にも財政の緊急事態宣言を出しているまちもある。ただし、民間企業でいう倒産のような危機があるわけではない。
- ・ 令和 8 年度の高浜市の予算が一般会計で約 2 0 0 億円、財政調整基金が約 7 億となっているが、昨年度ほぼこの財政調整基金が尽きかけ、国からお金を借りる形で、約 7 億円の残高となっている。
- ・ 財政状況が厳しい原因として、税収が極端に下がったのかというと、そういうわけではなく、ここ 1 0 年くらいは若干の前後はあるが大きく変わっていない。
- ・ 物価高、人件費高、扶助費と言われる福祉サービスの増大が大きな要因。
- ・ これまでも高浜市では長期財政計画や公共施設総合管理計画を作り、取り組みを進めてきたが、支出の増大に対して、税収の伸びが追い付いていないことが要因と考えている。
- ・ 財政改革として大きな部分であるのは人件費や公共施設。これまでも高浜市では、人件費については、高浜市総合サービス株式会社を設立し、職員数の削減による人件費の抑制に取り組んできた。公共施設については、早くから市役所や学校施設の建て替えや長寿命化を進めてきた。
- ・ 一方で、学校の改修には大きな費用がかかり、財政が厳しい要因の一つにもなっている。それでも、子どもたちのために学習環境を守りたい、なるべく早く子どもたちみんなに安心安全な施設をとということで、ちょっと無理をして取り組んできた。
- ・ ただし、今の建設費高騰を考えると、学校の改修等がほぼ終わっているというのは、今後を考えると、アドバンテージになっているのではないかと思っている。
- ・ それでも、限られた予算の中で、今後も同じサービスを続けていくのが厳しいというのが現状。今までは、貯金を取り崩しながら、市民サービスの充実に努めてきたが、基本に立ち返り、収入にあった高浜市の財政運営をしていきたい。
- ・ 職員だけの改革ではなく、市民感覚、企業感覚、それぞれの立場のご意見も伺いながら、高浜市が持続可能な、市民にとって安心安全なまちになるように、皆さんの力を借りて高浜市を再起動していきたい。

2. 辞令交付・自己紹介

- ・ 辞令は自席配布にて交付に代えさせていただきます。

- ・資料1及び一部委員作成資料に基づき委員及び事務局より自己紹介。

3. 議題

(1)会長・副会長の選出について

- ・委員より、会長に齊藤由里恵委員、副会長に畠孝二郎委員を推薦。

〔 会長を齊藤由里恵委員、副会長を畠孝二郎委員とすることで異議なし 〕

(2)高浜市 行財政改革について

- ・資料3に基づき事務局より説明。

(3)高浜市の財政状況・見通しについて

- ・資料4に基づき総務部長より説明。

<質疑・意見等>

委員： ・資料の字が小さいことと、ペーパーレスのためにも、スクリーンなどを活用してほしい。

委員： ・高浜市の財政状況について、全国や愛知県内での比較を知りたい。近隣市は非常に財政が豊かであり、比較するとどうしても高浜市の財政状況が厳しいという話になるが、愛知県内などで比較するとどうなのかというところも含めて、今後どうしていくのかというところを示してほしい。

〔 資料提示方法、財政状況の他自治体との比較資料については、行政で検討 〕

(4)市民会議の運営について

- ・資料5に基づき事務局より説明。

〔 議事録を概要として作成し委員の確認後公開すること、
広報たかはまへ写真を掲載することについて異議なし 〕

(5)(仮称)高浜市 行財政改革 プラン について

- ・資料6に基づき事務局より説明。

(6)行財政改革推進プロジェクト各分科会の取組状況について

- ・資料7、8に基づき事務局より説明。

<質疑・意見等>

委員： ・9月の市民会議でプラン案を提示される時には、ほぼ固まった案が出てくるように感じた。根本的なところや方向性のところで委員から違う意見があった場合に困るし、もったいないのではないか。もう少し前段階から、委員へも情報をいただき、会議体を設けるのは難しいかもしれないが、議論の途中であっても意見交換ができると良い。

- 行政：・可能な範囲で検討状況を共有したい。
- 委員：・どのような形で共有をしていただけるか、イメージがあれば教えてほしい。
- 行政：・現時点では具体的にお示しできないので、方法は検討させていただく。
・途中の検討段階のものをお示しして混乱を招いてもいけない。
・この計画は3年かけて取り組んでいく。皆さんからいただいた意見は、今年度できなくても来年度、再来年度と参考にして活用させていただく。
- 委員：・高浜市はお金が無いというのは子どものころから聞いてきたが、全国的に見てお金が無いというわけではないと思っている。今までいろいろなやってきたというイメージもある。
・その中で、公共施設の再構築や財源の積極的な確保については、これまで以上に力を入れるように思ったが、今回特に力を入れなければいけないと考えている部分があれば、認識を合わせるためにも聞かせてほしい。
- 行政：・事務事業の見直しについては、過去にも大きな部分で構造改革プロジェクトや経営改革プロジェクトで取り組んでおり、それ以外にも、毎年かなり厳しい見直しをしている。
・その中で、今回は短期で結果を出すため、公共施設の部分は力を入れていく部分にはなと思う。
・また、新たな財源を生み出すというところは、まだまだできていない部分があると思っている。支出を削ることばかり進めていくと、サービスの縮小などにつながる。なるべくサービスを削らないように、収入を増やすということに力を入れていけると良いと考えている。
- 委員：・高浜市の財政状況は、過去に調べたときには全国30番くらいだったと思う。近隣市が10番以内に入っているところが多いということで、他と比べると、財政状況が厳しいという声が出てくるのではと思っている。
・今後の市の運営において、財政調整基金が10億円くらいあれば運営していけるが、令和9年度に0円スタートになる見込みであるため、令和11年度に10億円を確保したいというのが行財政改革の元になっていると受け止めた。
・その中で、例えば、現在使用していない学校のプール等、負の遺産が残っていくのではないかと懸念がある。解体にも費用がかかる中、10億円よりも上乗せして確保していく必要があるのではないか。
- 行政：・財政調整基金の目標額については、財政規模によりこれくらいあった方が良いという割合があり、そこから算出している。
・財政調整基金は、過去のリーマンショックのような大規模な経済危機、急激な物価高騰、災害時などにも対応できるよう、どこの自治体も一定額積み立てている。
・財政調整基金の回復は、すぐにできることではなく、このままでは物価の高騰や扶助費の増大を考えると厳しい状況であることから、4つのプロジェクトにより進めていこうとしている。
・負の遺産となり得る、プールの跡地活用についても、歳入の確保につながる

ような検討も進めている。

委員： 委員作成資料に基づき説明。

- ・行財政改革に取り組むにあたり、市役所、関係機関みんなの取組姿勢、心得があった方が良いのではないかなと思う。姿勢・心得の案として武田信玄の格言を提案するので、参考にしていただき、取組みへの反映を検討してほしい。また、その取組姿勢を見てもらい、市民も含めた市全体で協力してもらえるのが良いのではないかなと思う。
- ・現在のピンチを機会に、チャンスに変えるための業務改革、意識改革を行って、市役所などが永続できる体制づくり、体力づくりが必要と思う。不交付団体という逆境にも負けない、意気込みが大事。
- ・ピンチをチャンスに変えるチャレンジの中、一生懸命取り組むことで身につく考え方やスキルがあると思う。目標を達成するための方策は必ずあり、それを一生懸命考えれば、知恵が出てくる。模索して、実行する中で、自分の価値が上がり、力がついていくことで、存在意義や達成感を体感できる。
- ・中期的な視点で言えば、一定期間苦しい期間があっても、その後の未来が示されていれば、市役所も市民も耐えられる。一時的に借金が増えても、将来返済できれば、という考え方もある。
- ・この会議やプランの愛称、作戦コードネームなどがあっても良いと思う。楽しく前向きに進めたい。

委員： ・最近高浜市は、住宅も店舗も増えているように思うが、市税がなぜ伸び悩むのか。資料4でも減収見込みとなっている。

行政： ・固定資産税や個人市民税は伸びている一方で、法人市民税はなかなか増収が見込めない。

委員： ・法人市民税の増収が見込めない理由や、今後の見通しは。

行政： ・法人市民税は非常に乱高下が激しく、特に大手法人の影響を強く受ける。店舗については高浜市でも増えているが、大手法人の影響が大きい。
・その中で、法人市民税に依存する財政運営をしていたら、持続可能性という視点から難しいため、通常時の税収の中でやりくりをすることを前提に、税収が多いときは財政調整基金に積み立てるといふ、法人市民税に依存しない財政運営に切り替えていきたい。

委員： ・決算カードなど数年分共有していただき、推移など分かると良い。
・市税の内、法人市民税の割合が大きく、乱高下が激しいというのは、課題の1つ。そういった課題が分かると、どの範囲まで通常の経常的な支出を収める必要があるかが分かってくる。

委員： ・今回のプランの説明は、何をやりたいかということがなかなか伝わってこない。今までいろいろなことに取り組まれているが、メッセージがうまく伝わらない。市民会議という場では、行間に含めてしまっただけでは伝わらない。
・例えば、なぜプロジェクトの分科会がこの4つなのか、何の取組みが何に寄与するのか。組織構造改革は、働きやすく、効率的になることもあるし、事務事業の見直しとは両輪で進めることに意味があるということかと思う。

- ・財政調整基金の残高１０億円の目標も、なぜ１０億円が目標なのか。組織構造改革は、すぐに財政状況に反映するわけではないけど、将来的に反映されるところだと思うので、中間的な目標をどこに置くのかも必要。今の説明だと、１０億確保できれば良いように見えるが、そうではないと思う。
- ・事務事業の見直しも、なぜ一般財源上位１００事業を抽出して見直しをかけるのか、今聞いただけでは分からない。おそらく裁量権のある事業で取り組みやすいということかと思う。
- ・都市計画税の学校施設への充当検討も、子ども子育てを重要政策として掲げたいから、安定した財源を充てたいなど、想いを説明してほしい。
- ・今後、地域説明会やパブリックコメントも実施する中で、説明に行かなくても、プランを見ればこういうことをやりたいんだということが伝わるようにしてほしい。市民も職員も、ある程度同じイメージを思い描けると良い。

4. その他

- ・資料の送付方法について、改めてアンケートにより意見聴取する。
- ・今回の資料、説明に関する補足資料を作成し、後日委員へ送付する。